

六、八高会—第八高等学校同窓会—

◆第八高等学校同窓会

これまで本書では第八高等学校のあゆみについて述べてきましたが、本章では八高の同窓会組織について触れておきたいと思います。

第八高等学校同窓会は、一九一一（明治四四）年七月、第一回卒業生が八高を巣立つと同時に設立されました。その会則は全一四ヶ条で、冒頭の数ヶ条は次のとおりです（『第八高等学校一覧（第四年度）』）。

- 第一条 本会ハ会員相互ノ和親ヲ謀リ併セテ母校トノ関係ヲ密接ナラシムルヲ以テ目的トス
- 第二条 本会ハ第八高等学校同窓会ト称ス
- 第三条 本会ハ本部ヲ第八高等学校内ニ置キ適當ノ地ニ支部ヲ設ク
- 第四条 本会々員ヲ分チテ左ノ二種トス

普通会員

一、本校卒業生

特別会員

一、本校校長教官及管テ校長教官タリシモノ

一、其他本校ニ縁故アルモノニシテ理事会ノ推薦ニ依ルモノ

∴ (略) ∴

この八高同窓会の設立は、大島初代校長の発案によるもので、「当時高等学校では卒業生のことごとくが大学へ進学していく関係から高等学校の同窓会は未だ存在せず本校同窓会がその最初の試みであった」とされています（作道・江藤編『伊吹おろしの雪消えて』）。本同窓会の業務は主に二つあり、一つは会員の消息や八高に関する情報を知らせるために年一回会報を発行すること、もう一つは毎年七月に八高で総会を開催することとされています。

なお、この第八高等学校同窓会については資料がほとんど残されていないため、具体的な活動内容やいつまで存続していたのかについても詳細は不明です。

◆八高会

八高会は、戦後第八高等学校が廃止された一九五〇（昭和二五）年八月、八高卒業生によつ

て東京に設立された同窓会（田中直通初代会長）で、設立当初から会報『瑞陵』を刊行しています。

一方、一九五四年六月には名古屋八高会（神野金之助初代会長）が設立されました。名古屋八高会の会報『やつるぎ』は、同会設立から二ヶ月後の同年八月に刊行されました。『やつるぎ』創刊号には、「名古屋八高会盛大に発足」との見出しと五〇〇名が参加した「発会式」のようすを写した紙面半分サイズの写真が第一面を飾っています。

さらに、一九六七年一月には関西八高会（川本良吉初代会長）が発足しました。

以後、八高会（東京）・名古屋八高会・関西八高会のほかにも各地区の卒業生が八高会を創設し、各八高会が独自の活動を行う時期が続きました。

◆一つの八高会

二〇〇一（平成一三）年六月、八高会（東京）・名古屋八高会・関西八高会等の各八高会が一本化され、新たに八高会として設立されました。各地区で活動する複数の八高会を統合しようとする気運は、「八高会は一つであり、一つでなければならぬ」という八高卒業生の思いが生み出したものであったといわれています。

新しい八高会の本部と事務局は、母校の地である名古屋市内に置かれました。また、この統

合を期に『瑞陵』（全五八五号）と『やつるぎ』（全五三三二号）の各会報は終刊となり、新たに一本化された会報『伊吹おろし』が創刊されています。なお、この創刊号は『やつるぎ』の号数を継承して『伊吹おろし』第五三四号として毎月一日に発行され、二〇〇七年一月現在で第七五号（通巻六〇八号）まで発行されています。

八高会は、一九五八（昭和三三）年に開催した八高創立五〇年祭をはじめとして、その後も八高創立の周年行事を定期的で開催するとともに、次に示すような記念刊行物を発行しています（カッコ内は発行年）。これらの刊行物は、かつての旧制高校「八高」の姿やその文化を今日に伝えるものとして、今後ますますその存在価値が高まっていくものであると思います。

『八高五十年誌』（一九五八）、『瑞穂丘物語』（一九六八）、『八高寮寮歌集』（一九七八）、
 『八高七十年祭』（一九七九）、『わが友 若き旅人よ』（一九八八）、『第八高等学校寮歌集』
 （同）、『忘るる勿れ丘の日を』（同）、『八高の先生がた』（一九九二）、『八高同窓生著作目録』（一九九三）、『やまはるかくもうかび（八高創立九十年祭記念誌）』（二〇〇〇）